

✽ 毎月23日は「福岡市 子どもと本の日」です ✽

～ 子どもの読書活動を推進しましょう ～

□「いつだって、読書日和」もうすぐ「読書週間」！

読書に関する秋の恒例行事といえば、何といっても「読書週間」ですね。いよいよ今月末の10月27日から「読書週間」に入ります。「読書週間」を推進している公益社団法人「読書推進運動協議会」によると、今年度の標語はタイトルに記しています「いつだって、読書日和」とのことです。同協議会からの「2015・第69回『読書週間』開催についてのお願い」によると、同協議会は、次の四点を「読書週間」のテーマとしているそうです。



- ① 国民すべてに読書をすすめる
- ② とくに青少年に読書をすすめる
- ③ 読書グループ（読書会、親子文庫、地域や職場などの読書サークルなど）の結成促進
- ④ 家庭文庫、地域文庫、職場文庫の充実

このうち②については、このような説明が書かれています。



「どんなメディアの時代でも、それを動かす主役が人間である以上、活字文化はすべてのメディアの基礎です。とくに幼少時から青少年時においての本とのつきあいが重要」スマホやパソコンの画面にくぎ付けになりがちな現代の子どもたちにとって、正に「いい得て妙」ですね。

ところで、右上のポスターや左上の読書週間のマーク、さらに、右側のロゴは「読書運動推進協議会」のホームページからすべてダウンロードできます。同協議会のホームページには他にも読書活動に関する役に立つ情報がたくさん記載されていますので、ご一読ください。



「読書推進運動協議会」のホームページ・アドレス

<http://www.dokusyo.or.jp>

□ 読書週間での取り組みは お決まりですか？

ポスター作成やおはなし会等、読書週間に向けた、あるいは期間中の活動について、各学校や園ではいろいろとお考えのことと思います。取り組みの活動例について、昨年、いくつか紹介しましたが、それに加筆、修正を加え、再度掲載しましたので、ご参考にされてください。なお、実施にあたっては、子どもの発達段階や学校・園の実情にあわせてアレンジするなど、工夫をされてください。



活 動 例 あれこれ

①「スタンプカードを活用した読書の促進」

専用のスタンプカードを準備します。貸出図書の返却の際、本一冊につきスタンプ一個を押します。スタンプの個数に応じてプレゼント（お手製のもので構いません）や借りられる本の冊数が増える等の特典を与えます。（集会などで表彰するのも良い。）

②「読書クイズ」

A 5 ぐらいの紙に「本」にまつわるクイズを記入し、封筒にいれます。子どもたちに封筒を選ばせ、中に入っているクイズの答えを、図書館で本を探して見つけます。

クイズの例：物語の一節（子どもたちが親しんでいるもの）を見て→書名を答える。登場人物名→その人物がでてくる書名を答える。作者はだれだ→人気のある作家だが、子どもたちにはあまり知られていない作品の一節を記し、作者名を答える。その他にも、「主人公が飼っている犬の名前は？」とか、「・・・の後、主人公が行った国はどこか？」など、物語の内容に関する質問等、いろいろ作れるのではないのでしょうか。

* ①の活動例と連動し、正解者にはスタンプが押印されるという手もあります。

③ 給食時間中の放送の活用例その1「おすすめ本の紹介」

給食時間中の放送で、図書委員や放送委員がおすすめの本を紹介します。

* おすすめ本の原稿については、図書委員、先生、地域の方など、学校関係者に幅広く依頼すると良いでしょう。

④ 給食時間中の放送の活用例その2「CDを活用した名作紹介の時間」

著名な俳優が名作を朗読したCDが存在します。（CDショップではなく、大手の古本チェーン店で、安価な価格で入手可能です。また、これはCDショップでの購入になりますが、村岡花子さん本人が戦前にラジオ放送した録音もCD化されています。）こうした音源を活用し、給食時間の放送で流します。

* カセットであれば、福岡市総合図書館に、名作を朗読したシリーズが置いてあります。

⑤「先生方によるブックトークや読み聞かせ」（「お話しレストラン」の形式で）

先生方全員で各自のお気に入りの本について、その本にまつわる思い出を話したり、読み聞かせを行います。実施する時間帯は各学校の実情にあわせて設定しましょう。

* どの先生が、どの部屋で、何の本を読むのか、「お話しレストラン」に習って、事前にメニュー表を配布、もしくは学級に掲示することが必要です。

⑥「先生方によるおすすめ本の紹介」

先生方全員に子どもたちにすすめたい本を学校図書館で選んでもらい、所定のカードにおすすめのポイントを書いてもらいます（POPの感覚で）。そのカードを該当の本の表紙に添付し、図書館内に設けた特設コーナーに展示します。

*カードに先生の似顔絵や顔写真（子どもの時のものでも可）をそえると、子どもたちは一段と興味を持って眺めるでしょう。

⑦「POPづくりコンクール」

図書委員がPOP作りをしている学校は多いと思います。図書委員だけでなく、全校の児童・生徒に呼びかけ、コンクール形式で優秀作を投票～表彰するという方法もあります。

⑧「児童・生徒によるブックトーク・ビブリオバトルの実施」

小学校の高学年や中学校・高校では、昼休みや放課後に標記の大会を行ってみるのはいかがでしょう。また、取り組みの様子や結果を図書館だより等で紹介しましょう。

*児童（生徒）チーム対先生チームによる対抗戦という形式にしても良いと思います。

*「ビブリオバトル」とは？

バトラーと呼ばれる発表者が自分が面白いと思う本について5分間で紹介します。聞き手は判定者となり、読みたいと思った本の発表者に投票します。最も多くの得票数を獲得した発表者が勝者となります。京都大学の研究室から始まったと言われています。

□ 読書週間での取り組みの景品にいかがですか！（ファイルとものさし）

読書週間中の取り組みに係る景品をお考えの学校に、昨年、下記の写真のようなファイルとものさし（15cm）をお渡ししました。まだ、若干、在庫がありますので、今年度もご希望の学校にお渡ししたいと思います。ご希望の学校は下記の連絡先までお電話ください。

*在庫には限りがございます。希望多数の場合には、ご希望に添えないことも考えられますので、ご了承をお願いします。



（23日の「福岡市子どもと本の日」啓発用のものさし）



（啓発用ファイル）

*ものさし、ファイルのお申込み先

福岡市学校図書館支援センター（福岡市総合図書館1階、団体貸出室内）

TEL：852-0639

☞職員通用口からお入りください。

□ 図書館歳時記（10月下旬～11月中旬）

展示コーナーの企画
等にご活用ください。

♪ 10月27日～11月9日：「読書週間」

1924年、日本図書館協会が「図書週間」（後に「図書館週間」と改称）を制定しました。戦時中は一旦中止になりましたが、戦後1948年から「文化の日」の前後にまたがる2週間で「読書週間」として再開されるようになりました。

♪ 10月27日：「文字・活字文化の日」

2005年7月に施行された「文字・活字文化振興法」により、読書週間の初日を「文字・活字文化の日」とされました。すべての国民が豊かな文字活字文化を享受できる環境を整備すること、学校教育課程を通じて、読む力や書く力など、言語に関する能力を涵養することなどを基本理念として制定されました。

♪ 11月1日：「古典の日」

源氏物語千年紀委員会が平成20年に制定。「紫式部日記」（1008年）に「源氏物語」に関する記述がなされ、ちょうど千年目にあたることを言祝い、この年、制定されました。

♪ 11月3日：「雨ニモマケズ」の詩を宮澤賢治が書いた日

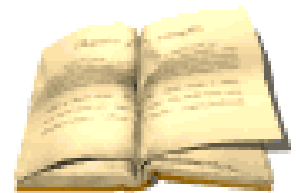
賢治が花巻の実家で闘病中、使用していた黒い手帳に書かれてあったもの。この手帳は、賢治の死後発見されました。ページ上部に11月3日の日付が記されていました。

♪ 11月7日：「オックスフォード・ガゼット」（現「ロンドン・ガゼット」）創刊

「ロンドン・ガゼット」はイギリス政府による公式な官報です。もとは「オックスフォード・ガゼット」と呼ばれ、1665年に創刊されました。現在も発行されている新聞の中で最古のものとされています。（gazette：官報、広報、新聞）

♪ 11月20日：「岩波新書」刊行

1938年、岩波書店が日本最初の新書本を刊行しました。「岩波文庫」が古典中心であったのに対し、一般啓蒙書を廉価で販売することを目的とされました。判型はイギリスのペーパーバックを参考にしたそうです。



✿ 10月・11月に関係する文学者・詩人・俳人たち

♪ 10月・11月生まれ的主要な文学者たち

10月26日	岩崎京子	(1922)	11月12日	ミヤエル・インデ	(1929)
11月1日	荻原朔太郎	(1886)	11月16日	まど・みちお	(1909)
11月11日	ドストエフスキー	(1821)	11月17日	井上ひさし	(1934)

♪ 10月・11月に亡くなった主要な文学者・詩人・俳人たち

10月25日	村岡花子	(1968)	11月2日	北原白秋	(1942)
10月29日	フランス・パーネット	(1924)	11月5日	佐野洋子	(2010)
10月30日	斎藤隆介	(1985)	11月20日	トルストイ	(1910)

□ **福岡アジア美術館・福岡市総合図書館からのお知らせ（10月～11月）**

＊ **福岡アジア美術館**

「**アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ**」10月後半から11月の日程は次のとおりです。

（10月）25日（日），27日（火）

（11月）8日（日），10日（火），22日（日），24日（火）

（時間）11：30～12：00，13：00～13：30（1日2回）

（会場）7階「キッズコーナー」 ＊事前の申し込みは不要です。

また、先月号でお知らせしました、アジアギャラリーでの二つの展覧会

＊「一粒の希望―土地は誰のもの?!」

＊「フシギ?の世界―ここではないどこかへ」

は12月15日まで行われています。ぜひ、お越しください。さらに、紹介作家や作品に関する関連図書も、7階カフェコーナーで継続展示中です。（写真右）詳しい内容は、福岡アジア美術館のホームページをご覧ください。

☞ <http://faam.city.fukuoka.lg.jp>



＊ **福岡市総合図書館**

福岡市総合図書館で毎月実施されている「**おはなし会**」について、10月後半から11月の日程をお伝えします。

（10月）24日（土），25日（日），31日（土）

（11月）7日（土），8日（日），14日（土），15日（日）

21日（土），22日（日），28日（土），29日（日）

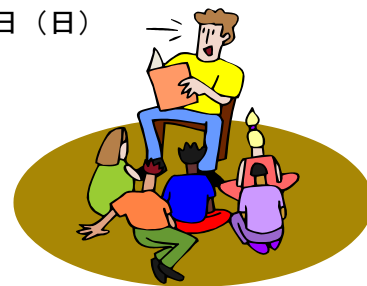
♪ **時間と場所**

土曜日 14：30～（幼児向け）

日曜日 14：30～（幼児向け）

15：15～（幼児～小学生向け）

場所は「こども図書館 おはなしの家」です。



♪ **こども図書館 10月の展示テーマ** は「生きかたいろいろ」、**11月**は「芸術の秋」です。

＊テーマに即したいろいろな本が展示されます。ぜひ、のぞいてみてください！

□ 福岡市学校図書館支援センターからのお知らせ

本市の学校図書館支援センターが本格稼働して、約半年がたちました。この間、多くの学校からたくさんの問い合わせや訪問のご要請をいただき、スタッフの皆さんはたいへん喜んであります。今後も、さらに多くの学校でご利用いただきたいということで、支援センターから次の2点について周知のお願いがありましたので、お知らせします。

①「学校図書館支援センターだより」が第2号まで発行されています。

学校図書館の運営の参考になる本の紹介も掲載されています。ぜひご一読ください。

②「学習支援用図書」（小学校用）の貸出を行っています。

内容は支援センターのサイト（福岡市総合図書館のホームページ内にあります）で、確認できます。ぜひ授業にご活用ください。

* 申し込み方法は支援センターのサイトでご確認ください。

* 中学校用学習支援用図書の貸出は来年9月からの予定です。

* 「福岡市学校図書館支援センター」のサイト

☞ http://toshokan.city.fukuoka.lg.jp/support_centers/index

あそびにおいで！

本の森

□ 第11回 福岡市子ども読書フォーラムのお知らせ

福岡市教育委員会では、子どもが本に親しむことができる環境づくり推進の一環として、標記の事業を毎年実施しています。11回目になる今年度の日時・会場は次のとおりです。

* 日 時：平成27年11月28日（土） 午前11時～午後4時

* 会 場：アミカス（西鉄高宮駅に隣接した建物です）

当日は、絵本の読み聞かせ、お話し会、劇をはじめ、読書に関する様々なイベントが盛りだくさんです。中学生、高校生も活躍します。ぜひ！親子で、友達同士で、気軽に会場を覗いてみてください。



* 「第11回福岡市子ども読書フォーラム」についての詳しい情報はこちらをご覧ください。

☞ <http://www.city.fukuoka.lg.jp/kyoiku-iinkai/shogaigakushu/ed/forum.html>

（注：詳しい情報が掲載されるのは10月末頃になります。）

□ 図書館員のひみつの本棚 《No.114》

福岡市総合図書館 読書相談員の重村さやかさんが紹介してくださるコーナーです。

時、所を構わず、いろいろなことを尋ねてくる子ども。そんな質問に答えるのを「面倒」と思われたことはありませんか？この本では各界のその道を極めた人たち（学者、医師、哲学者など）が、4歳から12歳までの子どもたちからの100の質問（「どうしてゾウの鼻は長いの？」のような素朴な質問から、「惑星はなぜ丸いの？」のような天文学に関する質問、「なにが、わたしをわたしにしているの？」「神様ってだれ？」という哲学的な質問等など）に、子どもが十分納得いくように、真摯に答えています。

子どもの頃の好奇心を失ってしまった大人にも、一読の価値は大いにありそうです。（実際、私は最後までたいへん興味深く読みました。）

知的好奇心をもくすぐるこの本は、学校図書館の蔵書としてもお勧めです。

☆ 今月の「図書館員のひみつの本棚」の本：

『世界一素朴な質問、宇宙一美しい答え』
（ジェンマ・エルウィン・ハリス／編 西田美緒子／訳
河出書房新社 2013年 2500円）



♪ あとがきにかえて * * * * *

「読書週間」も近まってきました。期間中、どちらの学校・園でも、充実した読書活動が展開され、子どもたちの本に親しむ姿がたくさん見られることを願っています。

今月号では取り組みの様子を紹介できませんでしたが、来月号では、できるだけ、多くの学校・園での取り組みの様子を紹介したいと思っています。どうか、ぜひ、情報をお寄せいただきますよう、お願いいたします。喜んで取材に伺わせていただきます。下記の電話もしくはメールでの連絡を楽しみに待っています。

編集・発行： 福岡市教育委員会 教育支援部 生涯学習課
電 話： 711-4655 FAX： 733-5538